

# テーマ 光

氏名 岩瀬 かおり  
クラス名 にじぐみ

# 「光」をテーマとした理由や背景

- テラスの庇にプールの水が反射して映る光を指差しして不思議そうに見つめたり、サンキャッチャーに反射してできた虹を雨みたいと表現し、触ろうとしたり目で追ったりする姿を見て光の動きの面白さや、幻想的な雰囲気に興味を持ち楽しんで欲しいと感じたため。
- 光を子どもたちがどう捉え、どんな風に遊ぶのか興味を持ったため。

## 活動スケジュール

- 9月上旬：光を捕まえよう                      対象1歳児   入れ替えながら5～6人
- 12月上旬：ケミカルライトで遊ぶ              対象1歳児   入れ替えながら5～6人
- 1月下旬：色々なライトで遊ぶ                対象1歳児   入れ替えながら5～6人

# 光を捕まえよう

(9月上旬)

## 期待する経験

- 光の動きを楽しむ。
- 光とは何か、興味を持つ。
- 光を触ってみる。

## 環境設定

準備物：鏡、懐中電灯、カラーセロ

ファン

対象 1 歳児、子どもは入れ替わり

5～6名



# 子どもの様子や言葉

- 壁の高い位置に鏡に反射させた太陽の光に気づくと指を指したり、目で追い始める。
- 反射させた光をゆっくり動かすと「こわい。」と怖がる子がいた。
- 手の届く位置にゆっくりと光を動かすと触ろうと近づき壁を叩いたり、ままごと用のお玉で掬おうとする。
- 手で押さえた時に光を消すと「捕まえた！」と手を壁から離し手のひらを確認していた。
- 光があるところを手で押さえながら「触りたい！」と言う。
- 鏡で光を動かしていることに気づき、影で光が見えなくなると「出して。」と言う子もいた。
- セロファンを鏡につけて緑色の光を動かしてみたが色が変わったことに触れる子は少なく、動く光を捕まえるのに夢中になっている子が多い。
- 窓にセロファンを貼り付けておくと、「みどりだね。」と色に注目し、静かに触ってみる。



# 振り返り（気づき、省察、考察）

## 自身として

- 初めは怖がっていた子も慣れてくると一緒に追いかけていた。普段は部屋にないものが急に動く怖いのかもしれない。
- 消えたり、動くものを追いかけるのが楽しいのではないか。
- 動かしていると、動きを追うことに注目してしまい、色が変わったことに気が付かない、窓に貼ることで色に注目したのではないか。
- 光を触りたいというのは大人にはない感覚、光に対する認識の違いが面白いと感じた。
- 太陽の光の反射でははっきりと写り離れた場所からでも光を動かすことが出来た為、光を追うことに夢中になっていたが、懐中電灯の光は遠くまで届かず近くで動かす為、光よりも懐中電灯に注目する子が増えてしまった。太陽の光の明るさがよくわかった。

## クラスとして

- 光を生きているものと同一視しているのではないか。
- この先のベースになる活動。

# ケミカルライトで遊ぶ

(12月上旬)

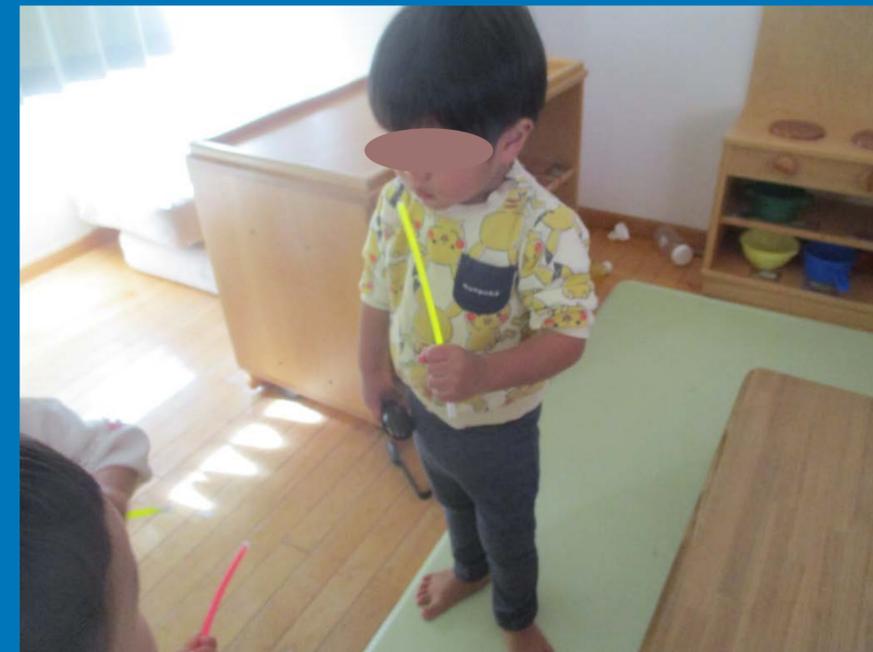
## 期待する経験

- 光るもので遊ぶことで光に興味を持つ。
- 「触りたい。」と言っていた光を触ってみる。
- 明るい場所と暗い箱の中のケミカルライトのひかりかたの違いを感じる。



## 環境設定

- 準備物：ケミカルライト 2色、段ボール箱 大、小、段ボールハウス
- 部屋の一部を暗くする。
- 対象 1 歳児、子どもは入れ替わりで 5～6 人



# 子どもの様子や言葉

- 箱の中のケミカルライトを見せると、すぐに掴み箱から出そうとする子と、触ることを躊躇している子がいた。
- 躊躇していた子も他の子が触っているのを見て触り始める。
- 横に振ったり折り曲げたりしていた。
- ハッピーバースデーを歌い息を吹きかけていた。
- 保育者がカーテンを少し開けて部屋を明るくすると「あけないで。」とカーテンを閉めたり段ボールハウスの中に持ち込むなど暗いところを探していた。



# 振り返り（気づき、省察、考察）

## 自身として

- カーテンで暗くしたがケミカルライトの光がわかりにくかった。天気がいい日の暗闇の作り方を考えなくてはと感じた。
- 光る棒だから振っているのか、棒状だから振っているのか、棒状だからろうそくに見立てているのかが分からなかった。次回は色々な形のライトを試してみたい。
- カーテンを開けると、声をかけなくても暗闇を探していた。

## クラスとして

- 感覚的に明るいと言えにくい、暗いと光がわかると感じているのかもしれないと感じた。

# 色々なライトで遊ぶ (1月下旬)

## 期待する経験

- 前回よりも暗い部屋で色々な種類の光を楽しむ。

## 環境設定

- 準備物：ケミカルライト 2色、ランタン 懐中電灯など数種類のライト、段ボール箱、囲うためのマット
- 子どもは入れ替わりで5～6人



# 子どもの様子や言葉

- 部屋全体を暗くしたため入るのを躊躇していた。
- カーテンの一部を開けると中に入り一番明るいランタンに全員が集まるが、すぐに他の場所のケミカルライトや、小さいライトに気づき触ったみる。
- ケミカルライトに息を吹きかける。
- ランタンの上部を触ると色が変わることに気づき、色を変えて遊ぶが赤色に変わると驚く。
- 保育者がカーテンを少し開け、部屋を明るくすると暗い場所にランタンを移動する。
- チカチカしているライトを見て『ほたるこい』の歌を歌う。
- チカチカしているライトを見て「忙しそう。」と言っていた。

# 振り返り（気づき、省察、考察）

## 自身として

- 部屋が暗いことで恐怖心か光を楽しめない。始めは明るくして少しずつ暗くする方が最初から楽しめたのではないか。
- ランタンや、円形のライトには息を吹きかけないが、棒状のケミカルライトには息を吹きかける姿があった。ろうそくをイメージしているのだろうか。
- ランタンの青色や、緑色は驚かないが、赤色に変わると驚いていた。部屋全体が赤く照らされた雰囲気には驚いたのだろうか。

## クラスとして

- 光というのは環境が大事だと感じる。暗いと怖い、明るいと言がわからない。暗闇の作り方を工夫する必要がある。
- 火は熱いというイメージではなく、光っているというイメージなのか。

# まとめ

- その日の天気や、部屋によっても光が分かりづらい、暗すぎると子どもが安心して遊べない、どんな環境だと光を感じられ、遊べるのか色々なパターンの環境を考える必要だと感じた。
- 動く光や、色が変わるライトやチカチカした光など動くものには、より興味を持ち夢中になっていた。
- 明るいところよりも暗いところの方が光を感じられることは感覚的には気づいているが、光と影の関係には気づいていないようだったので、引き続き光遊びを継続して光だけではなく光と影の遊びを取り入れたいと思う。